

教育民生常任委員会 摘 録

1. 開催日 令和6年3月18日(月) 第2委員会室
2. 出席委員 五島誠委員長 前田智永副委員長 横路政之 宇江田豊彦 藤木百合子
3. 欠席委員 赤木忠徳
4. 事務局職員 橋本和憲議会事務局主任主事
5. 参考人 吉方明美広島県立西城紫水高等学校同窓会会長
6. 説明員 なし
7. 傍聴者 1名(議員 徳永泰臣)
8. 会議に付した事件
 - 1 請願第1号 広島県立西城紫水高等学校の存続に関する請願
 - 2 その他

午前10時5分 開 議

○五島誠委員長 ただいまより教育民生常任委員会を開会いたします。ただいまの出席委員は5名です。直ちに会議を開きます。赤木忠徳委員より欠席届が提出されています。本日の会議において、傍聴、写真撮影、録音、録画を許可しています。

1 請願第1号 広島県立西城紫水高等学校の存続に関する請願

○五島誠委員長 本日の議題は、請願第1号、広島県立西城紫水高等学校の存続に関する請願ということで、前回、先週に引き続いて、本日はこの後、請願者に説明をしてもらいます。よろしく願います。それでは、早速、請願者をお呼びします。皆さんよろしいですか。それでは、暫時休憩いたします。

午前10時6分 休 憩

午前10時7分 再 開

○五島誠委員長 それでは、休憩前に引き続いて会議を再開いたします。改めて、本日の協議事項1点目、請願第1号、広島県立西城紫水高等学校の存続に関する請願書の件を議題といたします。本日は請願者である広島県立西城紫水高等学校同窓会の吉方会長にお越しをもらっています。本日はよろしく願います。それでは、早速ですが、まずは請願者から今回この請願を出されるに当たっての趣旨を説明してもらって、その後、質疑応答という形をとりたいと思います。よろしく願います。それでは、吉方会長、願います。

○吉方明美広島県立西城紫水高等学校同窓会会長 皆さんおはようございます。本日は貴重な時間を、私たちの願意を説明させてもらえる場をつくってもらってありがとうございます。既に、先日、請願

紹介議員が説明をされていますが、若干補足説明もあるかと思うので、本日させてもらいます。今回、市に対して、88万円の補助金をもらいたいという請願書を出しています。この88万円という金額が何に必要なのかということですが、実は、これは全国の小規模校が取り組んでいる事業の1つで、どうしても人数が足りない学校が全国から募集するための1つの手段で、地域みらい留学という制度です。運営会社は、一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォームで、松江市に運営会社があります。そこに登録をすることで、全国の、今から高校に入学したいという中学校の生徒たちにより詳しくつなげる、そういう役目を果たす会社です。88万円はここに登録をするための登録費用と理解をしてもらいたいのですが、登録をすれば全てがうまくいくのかということとそうではなく、登録したことで年に3回、東京会場が2回、大阪会場が1回、ブースを出す準備をしてもらえます。そこに行くためにはまた他の費用が必要で、とりあえず88万円という登録費用が必要です。これだけで全てが片づくわけではなく、今回、広島県教育委員会から200万円の予算をもらっていますが、その中から、当日会場に向かう引率の先生と生徒も含めて旅費が必要だということもあるので、そういったことに使いたいという思いです。少し話が前後しますが、西城紫水高校は、3年後に100周年記念事業を行う予定です。100年という歴史を持つ高校なのですが、この間、学校の名称を3回くらい変更していて、私が通っていた時代は西城商業高校でした。当時は40人学級の3クラス、全校生徒が360人くらいいた大きな学校だったのですが、今は広島県教育委員会が示す統廃合の対象となる1クラス20人、または全校生徒60人という本当にぎりぎりのところを行ったり来たりしている状況です。一方で、全国的な少子化の流れもあって、西城町での出生数も毎年20人前後のところで推移しています。もともと地元の高校には地元の中学校の子供がほとんど行っていたのですが、現在、西城中学校は20人を切るか切らないか程度で、全員が来たとしても本当にぎりぎりの状況で、全国に呼びかけて、何としても全国から選んでもらえる高校をつくりたいということで、この3年間ずっと、プロジェクトチーム会議の中でいろいろと検討をしてきました。西城紫水高校の校長、教頭は、学校内での自分の業務もありながら、県内のいろいろな中学校に生徒募集のための営業活動で出向いておられました。しかし、それも限界があります。また、PTAや私たちもSNSを使って、どうにか町外、市外からの生徒を募集するための発信をしてきましたが、西城町に限らず、近隣でいうと東城町もなかなか厳しい状況にあります。そうした中で、私たちは、本当に最後の手段だと、これにかけてみようと思って今回思い立ったところです。地域みらい留学にかかる経費ですが、先ほど言った登録料88万円が必要で、その88万円の中には東京会場の1会場分が含まれています。あとは、東京と大阪がもう1回ずつ。1会場で22万円かかるので、全部すれば追加が2会場で合計44万円。最初の登録費用と旅費をあわせて、3会場で合計172万円かかります。それと、西城紫水高校の何を魅力として生徒募集をするのかということになると、現在活動をしている3つの部活があります。それは射撃部と神楽部とドローンで、これを大きな柱として全国の中学生を呼び込もうという構えでいます。それにかかる費用ですが、西城紫水高校の場合、サッカーや野球など自分のものを用意して活動ができるもの、チームでできる部活動がないので、どうしても個人で部活動をするクラブが多いです。例えば、射撃部であれば、ビームライフル銃が1丁で40万円かかります。専用のユニフォームも現在は1着しかなく、1つは自前で買った生徒もいて、1着が18万円もします。2人分必要ということで36万円。これが射撃部に必要な経費です。神楽部は、毛のふさふさしたかつらがあります。現在、これが2つあるのですが、1つは地元の西城町神楽愛好会からの借りものなので、これがもう1つ欲しいということで、1つのかつら

が37万円します。そして、もう1つの柱であるドローンですが、現在、西城自治振興区などとコラボをしながらいろいろな活動をしています。12万円するドローンの機械が2台必要ということで24万円。合計で137万円。先ほど言った地域みらい留学に必要な金額が172万円、部活動を充実させるための費用が137万円で、合計で309万円必要です。今から予定される収入ですが、このたび広島県教育委員会から200万円もらえるということで、市からもし88万円が入るとすれば288万円。あと21万円足りませんが、これは、現在進行形で、既に同窓会でカンパをお願いして歩いているところです。ということで、市から、この登録料に限って88万円の補助をしてもらえればどうにか乗り切れるのではないかと思います。ことしの状況を見ると、一次募集で21人の募集があって、ネットニュースなのですが、二次募集が6人ということで、ことしの4月の段階で25人か26人くらいはいけるのではないかと予測をしています。ただ、それはことしに限ってで、来年の募集については、ことしの4月以降の活動いかんによって全国からどの程度子供たちが集まるかが大きくかわります。何と言っても、100周年記念事業が無事に終わられるか。閉校式が先になるかもしれないという瀬戸際に立っているの、成功するかどうかは頑張ってみないとわからないのですが、私たちはもうこれが最後の一手だと思ってるつもりでいるということで、ぜひとも市に88万円の補助金を追加でお願いしたいという思いで今回、請願書を提出しました。御審議をしてもらって、補助金がもらえるようにどうかお願いします。以上です。

○五島誠委員長 それでは、先ほど、説明をしてもらいましたが、委員から質疑あればこれを許します。質疑はありますか。吉方会長。

○吉方明美広島県立西城紫水高等学校同窓会会長 現在、教育振興会が市から85万円をもらっています。これの、例えば、きょねんの分はまだできていないのでおとしのことを説明すると、市から補助金として85万円をもらって、あとは助成金ということで各所から、例えば、西城紫水高校のPTAから30万1,000円、庄原市社会福祉協議会から3万円、自治振興区から2万円、西城町のネットワーク会議というところから2万円、庄原農業協同組合から30万円ということで、合計で67万1,000円をもらっています。こちらの支出ですが、何に使っているかというと、事務費は1万9,000円くらいで、教育活動支援費ということで、実は、西城地域貢献活動の講座、紫水塾というのをやって、塾の講師料に55万円くらい払っています。あとは、神楽部の講師への謝金、神楽甲子園のための貸し切りバス、上級学校の訪問のための貸し切りバス、オープンスクールにかかる経費、それから、高校生が自前のカレンダーをつくって町内のお年寄りの家庭に配ったりしています。ということで、教育振興会は、きょねんも、85万円をもらって、よそからの補助金ももらいながら、150万円くらいの支出をしながら活動をしているということで、こちらもぎりぎりできてきているので申し添えておきます。

○五島誠委員長 改めて質疑に入ります。横路委員。

○横路政之委員 88万円は単年度限りなのですよ。場合によっては次も頼むかもしれないということはありませんか。

○五島誠委員長 吉方会長。

○吉方明美広島県立西城紫水高等学校同窓会会長 そうです。1年限りです。

○五島誠委員長 他にありますか。前田副委員長。

○前田智永副委員長 今、いろいろと説明をもらって、88万円の使途についても説明をもらいました。88万円を使って地域みらい留学に参画したいとのことですが、先日、紹介議員にも聞かせて

もらったのですがよくわからなかったもので、登録というのは、新年度当初の登録でないといけないのか、途中でも登録ができるのかがわかりますか。

○五島誠委員長 吉方会長。

○吉方明美広島県立西城紫水高等学校同窓会会長 途中からでも大丈夫だとは思いますが。ただ、東京会場、大阪会場に出向いての学校説明の日程が6月から9月の間くらいに3回あります。6月のスタート時点から参加しようと思えば早い段階で登録しておかないと、1回は行けないということもあるので、それは早いほうがいいと思います。

○五島誠委員長 他にありますか。前田副委員長。

○前田智永副委員長 12月には間に合わなかったのですか。今の時点で請願をするということは新年度当初の予算が決定している段階での請願になるので、なかなか難しいのかなという思いが個人的にあって、もし12月に間に合えば、当初予算に間に合ったのではないかなという思いがしてならないのです。12月に間に合わなかったのは何かありますか。

○五島誠委員長 吉方会長。

○吉方明美広島県立西城紫水高等学校同窓会会長 12月中にはそのことを決めていました。議会にかけ合っていたのですが、まず先に要望書を持っていく必要があるだろうということで、市長に面談の申し入れをしましたが、なかなか日程が合わないのが年が明けて早い段階でとのことで、12月議会には間に合いませんでした。

○五島誠委員長 他にありますか。藤木委員。

○藤木百合子委員 西城紫水高校は、小規模で、非常に生徒に寄り添って、とてもいい教育をされていると聞いて、今、高校に限らず、小学校からずっと不登校の子供も結構ふえてきている中で、そういった小規模の、本当に生徒一人一人にきめ細かく寄り添う学校、中学校までであれば不登校特例校ができていますが、高校の段階で、西城紫水高校の持っている役割は非常に大事なのではないかと思います。だけれども、生徒が集まらなると廃校という方向が出ている以上、本当に全国から1人でも来てほしいということで、校長もこういった取り組みは非常にしてみたいと言われていました。いいことだとは思いますが、何せお金のかかることなので、費用をどうするかということもあると思います。今回、県が200万円というお金を出してきたことは、県も一歩進んだのかなという感じもしなくはないのですが、今回、1回限りということで、私としては賛同したいと思います。意見です。

○五島誠委員長 吉方会長。

○吉方明美広島県立西城紫水高等学校同窓会会長 県内で三次市よりも遠くから来ている子供ももちろんですが、県外から来ている子供もいます。今、幸いなことに寮が非常に充実していて、ちょっとしたビジネスホテルのシングルルームくらいの、感じのいい寮です。寮の子供たちも本当に伸び伸びとしています。余談ですが、この間、ホーユーの関係で給食が一時ストップしたのですが、そのときにいろいろなところから応援に来てもらって、私たち地元の間も同窓会のメンバーと一緒に2回炊き出しをして、非常に喜んでもらったということで、地元とのつながりも強いし、夏休みの間などに地元に戻れない子供たちもいるのですが、そういうときは、里親的なお家があって、そこで何日間か見てあげるといって、学校と地域のつながりも本当に密になっている状態で、いい関係なので、本当に好ましい環境にあると思います。環境がいいことくらいで、本当に山の中で、ほかには何もなければ何もありませんが、人情味があふれている。県外の方も本当に喜ばれて、卒業した子供もたち

が西城紫水高校に来てよかったという県外の子供の声も寄せられています。

- 五島誠委員長 横路委員。
- 横路政之委員 定員が何人で、今は何人ですか。
- 吉方明美広島県立西城紫水高等学校同窓会会長 40人くらい入れます。
- 横路政之委員 40人入れて、今は。
- 吉方明美広島県立西城紫水高等学校同窓会会長 今、22人か23人です。
- 横路政之委員 完全個室ですか。
- 吉方明美広島県立西城紫水高等学校同窓会会長 そうです。
- 五島誠委員長 他にありますか。先ほどの話の中で、最初の説明会が6月から9月の間くらいに始まるとなると、急いで登録をしないといけないと思います。そうした中で、資料をもらったし、先日は紹介議員の方にも少しお聞きしたのですが、執行者に要望を出してからリアクションというか、そうしたことがあるのかをお聞きします。
- 吉方明美広島県立西城紫水高等学校同窓会会長 現在まで特にありません。
- 五島誠委員長 他にありますか。宇江田委員。
- 宇江田豊彦委員 我々が考えなければならないことは、教育に困窮する地元の子供たちが受け入れられる状況になるのかどうかが一番大きなことで、全国に募集をかけているところから子供に来てもらえる状況になったときに、経済的にとか、さまざまな要因で地元の学校に通いにくい子供たちが通える学校であり続けてくれないといけないということ。これが基本です。これをきちんとしていくための体制を整えることが大切だと思います。社会状況も大きく変わって、私も西城商業時代に通いました。1973年、1学年160人という規模の学校でした。しかし、時代は大きく変わって、今、子供たちが非常に少ない状況になってきています。その中であって地元の子供が通える学校として位置づけていかなければならないということが肝要だと思っています。例えば、近隣で言うと三次市に中高一貫校ができていますが、なかなか地元の子供がいけないという状況も起こったりしています。今、子供が減っているので、また3年前、5年前と状況は変わっていますが、地域の子供を受け入れられる県立高校として守っていかなければならないと思います。県内の他の3校の実践例を見ても、そんなに全国からおいではなっていないようですが、そういう状況になったときにはもう一度考え直すことも必要になってくると思いますし、地元の子供が多く通ってくれる状況になればということも考え直さなければならない時期も来るのではないかと。そうなれば一番いいのですが、そういうこともお考えなのかどうかお伺いをします。
- 五島誠委員長 吉方会長。
- 吉方明美広島県立西城紫水高等学校同窓会会長 それは考えざるを得ないと思います。
- 五島誠委員長 他にありますか。よろしいですか。それでは質疑を閉じます。それでは吉方会長はここで御退席ください。ありがとうございました。
- 吉方明美広島県立西城紫水高等学校同窓会会長 何とでもよろしく願います。
- 五島誠委員長 暫時休憩といたします。

午前10時34分 休 憩

○五島誠委員長 休憩前に引き続いて会議を再開いたします。先ほど、請願者の吉方会長から説明、そして、質疑応答をさせてもらいました。委員の皆さんから、この件に関して今後どのように取り計らうか御意見をください。前回の流れの中で、もう少し聞いてみたいことやクリアにしておきたいことがあったわけですが、そうしたものがきちんとできたかどうかで最終的に本委員会としてどのように判断するかということになってくるかと思えます。前田副委員長。

○前田智永副委員長 本日、請願者の方においでをしてもらって、いろいろと説明をしてもらいましたし、先日、紹介議員の御三方に話を伺いましたが、もう少し議論が必要だということも本日の話で明確になった点がかかなり多かったと思います。私は、本来であれば、12月までに間に合えば当初予算に間に合ったのではないかという懸念があったので意見をさせてもらったのですが、その辺のことも本日、明確になったのではないかと思うので、本日の採決でよろしいのではないかと思います。

○五島誠委員長 他にありますか。宇江田委員。

○宇江田豊彦委員 仮にこの請願が付託をされたとして、執行者が予算をつけられるかどうかはわかりませんが、どのような形になるかはわかりませんが、執行者が予算化をするのがずっと先のことになって、それはそれで同窓会会長を中心として具体的な取り組みを進められると思います。きょう話を伺って、独自の取り組みを相当しておられるという実感を受けました。どのような結論を出そうともそのように活動されるので、議会として、このことを受けて、涙ぐましい努力をされていることに対して私自身は採択をしたらどうかという思いが強いです。私の意見です。

○五島誠委員長 他にありますか。よろしいですか。それでは採決に入ります。請願第1号、広島県立西城紫水高等学校の存続に関する請願書について、採択すべきという方は挙手をお願いいたします。

〔挙手「全員」〕

○五島誠委員長 それでは、広島県立西城紫水高等学校の存続に関する請願書については、本委員会としては採択ということで決定します。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○五島誠委員長 なお、本会議における報告については正副委員長に御一任ください。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○五島誠委員長 そのように決定いたします。それでは、議題の1点目、請願第1号、広島県立西城紫水高等学校の存続に関する請願については閉じます。

2 その他

○五島誠委員長 続いて、協議事項2点目、その他の項です。本委員会の今後の方向性は、先日の委員会で決めたとおりです。閉会中の継続調査については、その内容で引き続いて進めていくということと、本定例会の最終日に生活交通についての報告を行うということで既に確認をもらっているもので、確認の意味で、そのようにさせていただきます。よろしくをお願いいたします。また、委員の皆さんから、その他の項で何かあればお伺いをします。宇江田委員。

○宇江田豊彦委員 先ほどの生活交通については、所管事務調査ですから、今期で報告をして、一定の

中間的なまとめをして次の段階へ進んでいこうということです。永末地域から陳情書が出たり、教育条件整備等々については喫緊の課題だと思うので、総合的に解決をしていくために、地元の皆さんを招聘して、意見を交わして、本委員会としても早期に方向性を出していく必要があると思います。ですから、保育所の問題、放課後児童クラブの問題、教室の狭隘化の問題といったことを含め、早い時期に参考人招致をして、実際に、地域の皆さんがどのようにお考えなのか。解決策とすれば、どのようなものを模索すればいいのかということをするべきだと思うので、そのことを希望します。

○五島誠委員長 横路委員。

○横路政之委員 永末小学校の問題は、いろいろとしてきて、僻地保育所の取り扱いをどうするか。ここがどうなるかで展開が決まると思います。だから、その辺のところを地元の方がどのように思われているのか、最終的に取り払ってもいいと思われているのかもきちんと聞いた上で本委員会の結論にしたいと思うので、宇江田委員の言うように意見交換会をすればどうかと思います。

○五島誠委員長 先ほど、委員2名から永末小学校の件に関して参考人招致をしたらどうか、地元の方をお呼びして話を聞いてみようという話がありました。そうした中で最終的に本委員会の結論を一定程度あらわしていく必要があるという御意見だったので、これについては、あまり時間を置かずに、早い段階、3月、4月で、地元の方もさまざまな役員の交代の時期かなと思いますが、そうしたところも少し調整をさせてもらいながら取り組みたいと思います。閉会中にはなるかと思いますが、日程調整を含めてまた調整をさせてもらいたいと思います。よろしくお願いいたします。それでは、こちらの件につきましては委員長、副委員長に一任ください。次回の委員会の開催もあわせて検討していきたいと思うので、よろしくお願いいたします。他にありますか。よろしいですか。それでは、以上で教育民生常任委員会を閉じます。

午前10時44分 散 会

庄原市議会委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

教育民生常任委員会

委員長